

Title	低温センター副センター長に就任して
Author(s)	大貫, 惇睦
Citation	大阪大学低温センターだより. 2000, 111, p. 22-22
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/7453">https://hdl.handle.net/11094/7453</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 低温センター副センター長に就任して

大阪大学低温センターはご承知のごとく豊中と吹田キャンパスに分かれていて、センター長と副センター長を両キャンパスで2年ごとに交替しています。両キャンパスでの実質的な低温センターの運営は基本的には独立で、現在センター長は吹田分室の濱口智尋教授がなさっています。私は前任の副センター長都福仁教授のご退官に伴い、本年4月より就任しました。宜しくお願い致します。

これまで低温センターの運営委員をしていましたので、豊中分室のことはほぼ把握していました。しかし、この数年の液体ヘリウムの供給量の急激な増大と、現在のヘリウム液化装置の故障状況から、新しい大型のヘリウム液化装置の導入は待ったなしの時期に来たことを痛感する次第です。

現在のヘリウム液化装置は平成4年に導入し、現在8年目を迎えています。導入後の数年間におけるヘリウム供給量は年間35,000ℓでした。この装置のまままあ無理のない最大供給量は約50,000ℓと見込んでいたと思います。理学部や基礎工学部の大学院重点化による学生増と大型の低温設備の導入及びCOE形成などにより、平成7年に50,000ℓを越えてその後直線的に増大を続け、平成11年度は何と95,000ℓと驚くべき供給量になりました。この数値は現在の吹田分室の4倍にあたります。実質的な運転としては、本液化装置はほぼ11年間分働いたと言って良いと思います。このような大量の液体ヘリウムの供給は、教育・研究の活性化の反映ではありますが、供給するサイドから見ますと、低温センター技官の過度な労働に支えられていると言っても過言ではありません。何とかこの1～2年でより大型の液化装置を導入しなければなりません。関係者のご理解とご協力を切にお願いする次第です。

その他、豊中分室の施設はできるだけ多くの低温関係者にご使用できるよう便宜を図りたいと思います。ご気軽にご相談下さい。事故のない安全で、かつ需要に応じた液体ヘリウムの供給が低温センターの基本ですので、そのことを認識してスタッフ一同努力したいと思います。宜しくお願いいたします。

大貫惇陸